

岡崎市子ども会が開催する球技大会のガイドライン (フットベースボールの部) 2023 年度限定版

子ども会活動における球技大会は、子ども会会員相互の友愛と親睦をめざし地域ぐるみのふれあいの場を作るうえで重要であり、活動にあたっては子ども達をはじめとする参加者のけがや熱中症の予防に配慮するとともに、出場するチームが同一の条件となるようにすることが大切です。

本ガイドラインは子ども会活動としての球技大会について参加者の安全確保、チーム間の条件の統一などを重点に最低限度の取り決めをするものです。活動の時期や地域性等を考慮し、それぞれの地域や活動に合わせた申し合わせ事項の作成やグラウンドルールの設定を制限するものではありません。

1. 熱中症事故防止について

「子ども会活動中の熱中症事故予防について(岡子連平成 31 年 3 月 15 日発行)」に基づき、熱中症予防運動指針に従って大会運営および練習を行い、定期的な休息(15~20 分毎を目安、参加者の体調を見て判断)にて、水分・塩分補給・身体冷却(冷やしたタオル・ミストなど)を行うなど、参加者の体調管理に万全を期すこと。

暑さ指数(WBGT)が 31℃以上の場合は、運動は原則中止すること。

暑さ指数は、環境省熱中症予防サイトから、地域:岡崎、子供を選択した時の暑さ指数とし、30 分毎を目安に確認し活動実施可否を判断すること。

参加者においても、体調不良や睡眠不足の状態での参加とならないようにするとともに、大会運営者や育成者は参加者の体調を確認すること。

熱中症に備え、予め、涼しい場所の確保、処置方法(熱中症予防ガイドブック P7)を、参加者へ周知しておくこと。

環境省熱中症予防情報サイト(スマホページ) <http://www.wbgt.env.go.jp/sp/>



スマートフォン用QRコード
<http://www.wbgt.env.go.jp/sp/>

(PC ページ) http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック(WEB ページ)

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide01>

2. 落雷事故防止について

雷雨が短時間の場合でも、安全管理面から以下のような慎重な対応を判断する。

(1) 雷が近づき、中断するような場合、選手等を建物もしくは、車中に避難する。

※テントの中への避難は危険なので、行わない。

(2) 観戦者にも雷のため中断し、避難するよう案内する。

3. チーム編成について

(1) 選手構成は小学生とし、年度当初の所属チームの変更はできない。

(2) 編成は選手 15 名以内、監督 1 名、コーチ 2 名以内とし、総計 18 名以内とする。

(3) コーチは中学生以上、監督は 20 歳以上の育成者・指導者が行う。

(4) 抽選会後の選手の変更などは、主催者・監督で協議する。

(5) チーム編成に不正があった場合は、そのチームの出場を停止する。

大会後に不正が発覚した場合は、そのチームの順位を取消し、次の順位のチームを繰り上げる。

(6) 追加項目

項目(1)で、選手構成を小学生としたことにより、男女混合のチーム編成が可能となったことで、女子チームとの公平性を考慮する必要がある為、男女混合チームの、男女の出場人数制限については、2023 年度限定で、下記の規定等を申し合わせ事項として設定することができるものとする。

- ① 3 年生以上の女子がベンチに残っていることがないこととする。
- ② 男子はフィールド内キャッチャー 1 名を含む 4 名まで(ピッチャーを除く)とする。
- ③ 男子の学年は、6 年、5 年、4 年、3 年生で各 1 人までとする。
- ④ 適応学年については、下の学年への入替えは可とする。例→6 年 0 人 5 年 2 人可
- ⑤ チームの男子人数が 4 人を超える場合は、上記規定の範囲内で交代は自由とする。

4. 出場チームについて

(1) 子ども会のチームとする

(2) 出場チームは、抽選会前にメンバー表を大会本部へ提出する

(3) 原則として大会抽選後の選手変更は認めない

5. 試合について

(1) ルールはフットベースボールオフィシャルルールを適用する。

(2) 試合回数は 7 回とし、50 分を越えて新しいイニングに入らない。

(3) 4 回以降 10 点以上の得点差がついた場合はコールドゲームとする。

(4) 7 回を終了後、同点の場合は次による。

・50 分を超えていない場合は、延長戦を行う。ただし 50 分を超過したイニングが終了した時点で同点の場合はタイブレーカーを行う。

・50 分を越えている場合は、ただちにタイブレーカーにより勝負を決定する。

(タイブレーカーは無死走者満塁を設定して実施する)

6. 運営について

- (1) ベンチはトーナメント表・リーグ表の若番を一塁側とする。
- (2) ベンチにはメンバー表に登録されていない者は入ってはならない。ただし、世話係として2名は後方に控えることができる。
- (3) 試合開始予定時刻10分前までに集合していないチームは棄権とみなし相手チームの不戦勝とする場合がある。
- (4) 打順表(オーダー表)を使用し、試合開始前に当該試合の球審に大会で定められた枚数を提出すること。
- (5) 監督は選手交代・打ち合せ・抗議等必要な時以外はベンチを離れてはいけない。
- (6) コーチヤーズ・ボックスには選手以外の者を入れない。
- (7) 試合中のヤジは嚴重に取り締まり、それを行ったチームの負けとすることがある。
- (8) ベンチ内でのタープ等の使用においては運営側にて協議し対応する。

7. 服装および道具について

- (1) 服装はチーム揃いで、危険な服装とならないよう適正サイズの着用や余った部分の固定などの対策を行うこと。監督・コーチについても運動の出来る服装とし、サンダル等は禁止する。半ズボン(これに類する物を含む)の場合は、ヒザ下(ふくらはぎが隠れる程度)までのストッキングを着用するものとする。
事情によりチーム揃いとならない場合は、大会運営者、チーム関係者、審判と協議し出場可否を決定する。
- (2) 靴は金属製スパイクのついたものは禁止とする。
- (3) 帽子は、揃いのものとし、あごひも付きのものが望ましい。
- (4) 背中の見やすい位置に15cm四方程度の背番号を危険のないように固定する。
- (5) 危険防止のため、試合中の選手は腕時計・ブレスレッド・ネックレス・イヤリング等その他危険と思われるものを着用してはいけない。
- (6) 試合にあたり、ボールはフットベースボール専用球(FB-101)を使用する。

8. 審判員について

- (1) 制限はないが、主審・塁審とも岡子連審判養成講習会受講者が行うのが望ましく、練習試合等で審判経験があるなど、フットベースボールルールの知識のある者が行うこと。
- (2) フットベースボール委員会へ審判を依頼する場合は、「フットベースボール審判派遣依頼書」によって依頼をすること。
- (3) 審判員は、運動のできる服装で、運動靴・帽子を着用し、サンダル・ツッカケ等は禁止、またサングラスも禁止とする。

9. 応援について

- (1) 子ども会にふさわしい応援とし鳴り物は使用しない。
- (2) 世話係および関係する応援者は、選手、審判や関係者に対する罵声、怒号、指示やヤジは禁止とする。また、物を投げてはいけない。

10. その他

- (1) 球技大会およびその練習の運営・進行は、子ども達の健康や安全を最優先に考え、子ども会の良識をもって実施すること。

11. コロナ感染防止対策

- (1) 大会の1週間前から、参加者の体温・体調及び同居人の体調を記録し、平熱・体調が良いことを確認し、監督・チーム代表者は、当日朝、参加者全員に問題ないことを確認の上、参加者連絡先名簿を大会へ提出する。監督・チーム代表者も参加者連絡先名簿を管理し、大会開催中も含め常に連絡が取れる様にし、大会終了後も参加者連絡先名簿を1ヶ月間保管・管理しておく。
- (2) 監督・コーチ・世話役はマスクを着用とする。選手は攻守時マスク着用は任意とする。チーム内で健康・安全面の配慮をすること。
- (3) ベンチ内では選手同士、指導者の距離を1m取る。
※ベンチは縦2m×横11mとし、横1m間隔にラインを入れたエリアを目安に、選手・監督・コーチ間の接触を避ける。



- (4) 試合参加者は、試合前後に手指の消毒を行う。
- (5) 試合球は、試合開始前・攻守交替時・試合終了時には消毒を行う。
- (6) 試合開始時の集合は、主審の“集合”の合図により、ベンチ前の境界線の外側から境界線の内側に1歩前を出て主審側に体を向ける。主審の“礼”の合図により、選手は礼を行い、声を出して挨拶をする。
- (7) 試合終了時の集合は、主審の終了の合図により、ベンチ前の境界線の内側に整列し主審側に体を向ける。主審の“礼”の合図により、選手は礼を行い声を出して挨拶をし、境界線の外側に移動する。

以上